



IIPS

## 第3回中曾根康弘賞受賞者(2007年6月28日授賞)

### 1 中村千秋 (なかむら ちあき) (優秀賞)

年齢：1958年9月26日生れ(48歳) 国籍：日本

所属：アフリカゾウ国際保護基金(AEF-I)研究課代表

選考理由：1989年以降、ケニア共和国のツァボ・イースト国立公園に単身で住み込み、アフリカゾウの研究を継続。その活動は単に動物の生態研究にとどまらず、アフリカゾウが生きている原自然の生態系を守るために、地域住民の理解を得るための活動を行うとともに、地域の発展や住民の生活向上のために、地域の女性たちの経済的な自立を促し、村への水道管敷設、生活改善運動も行ってきた。さらに、日米の大学とともに教育エコツアーを実施し、アフリカにおける自然生態系のあり方、野生動物保護や自然環境の問題、地域住民のあり方への理解促進に努め、精力的に現地での環境保護に取り組んでいる。

### 2 Maria Ela L. Atienza (奨励賞)

年齢：1972年1月7日生れ(35歳) 国籍：フィリピン

職業：フィリピン・ディリマン大学準教授(政治学)

選考理由：フィリピンでは1986年に、マルコス政権後のアキノ大統領が民主主義の確立と住民の政治・行政参加を明記した新憲法を制定した。それを受けて、1991年にフィリピンの地方行政における「地方自治」と「地方分権」の実現を目指すことを目的に新地方自治法が制定された。

新地方自治法施行に伴い、各地域における保健サービスの提供について、二つの自治体をケーススタディーとして、地方への権限委譲の枠組みを研究し、保健サービスの提供を行う人間と設備の規模、資源の配分や優先順位に着目すること、市民、非政府団体(NGO)、住民団体(PO)等の地方自治への参画を促進することが重要であることを分析した。この研究は、発展途上国における公共政策に対して示唆を与えるものである。

### 3 Yeo Lay Hwee (奨励賞)

年齢：1963年3月15日生れ(43歳) 国籍：シンガポール

所属：シンガポール国際問題研究所(SIIA)主任研究員

選考理由：グローバルガバナンスの促進のために、これまでアジア・アメリカ間、欧州・アメリカ間に比べて、政治・経済的な結びつきが薄かったアジア・欧州間の関係を強化することが重要であるという観点から、1996年のASEM(アジア欧州会合)開設以来、その活動に従事してきた。合わせて欧州内でアジア理解促進のために講演等の活動や著述を精力的に行い、また、東南アジア内でも相互理解のための会合を主宰し、さらに東南アジアにおける国際問題を分析・解説するウェブサイト「SEAPSNET」を自ら開設するなどの活動も行うなど、アジア・太平洋地域からの発言、発信に努め、相互理解の促進に寄与してきた。